



# 祐介の目

No.136

大田祐介 (福山市議会議員)

バイク暴走族というイメージも過去のものとなり、高校生に対してバイクの免許を取らない・乗らない・買わないをスロガンとする「3ない運動」も埼玉県は廃止した。保護者の同意を得

## バイクブーム

空前のバイクブームと言われた80年代、私も16歳でバイクにはまり、以降38年間スパーカブによる新聞配達から始まり1000ccまで十数台乗り継いできた。これまで大きな事故にも遭わず、バイクライフを楽しめたことは本当に幸せだった。十代で北海道を一周したり、鈴鹿8時間耐久レースを観戦したり、バイクのお陰で行動範囲が広がり、忘れられない思い出を多く作ることができた。

最近、またブームが到来したと言われている。コロナが拡大する中、3密を避ける移動手段としてバイクの利用者が拡大し、ツーリングやソロキャンプ指向者が増えたそう。また、高速道路で軽自動車と同じ料金を払っていたバイクに「ETC二輪車定率割引」が導入された。これは自民党二輪車問題対策プロジェクトチーム座長の三原じゅん子参院議員の功績が大きい。

た上で学校に申請をした生徒に対して、埼玉県は免許取得およびバイクに乗ることを承認し、安全運転教育を実施している。バイクに乗って間もない高校生の視点に立ち、様々なことを体験してもらうよう入念に練られたプログラム内容だ。

また、原付は50cc以下という制限も125ccに見直す機運がある。国産バイクメーカーも海外では125ccの生産が主流であるし、幹線道路を50ccという低排気量で一般車両と並走するのは危険だ。軽自動車や原付というガラパゴス化した基準の見直しにも政治力が必要だろう。私も現在125ccのハンターカブに乗っているが、車の流れに乗っても燃費はリッター60kmだし、荷物の積載量は大きいし、高速道路に乗れない以外は何の不満も無い。人間一人の移動手段として最も環境に優しい乗り物が125ccではないかと思う。皆様もチャレンジしていただきたい。